

西和賀の自然保護を評価

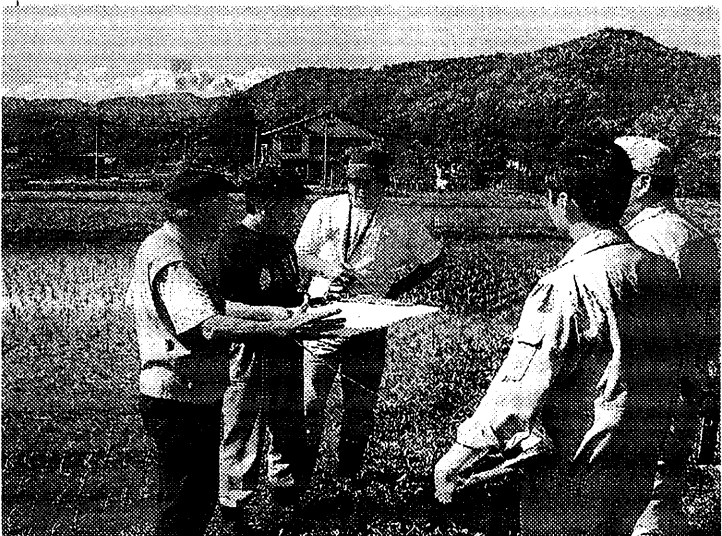
里地里山保全 活動コンテスト 沢内などで活動のNPO受賞

里地と里山の保全に力を尽くした団体を表彰する「日本の里地里山30 保全活動コンテスト」(読売新聞社主催、環境省共催)の受賞者へ、湯田町と沢内村で活動するNPO法人「西和賀文化遺産伝承協会」が選ばれた。事務局長の広瀬龍一さん(63)は「活動が評価されることで、地域の自然や風景、文化を守っていく機運が高まればありがたい」と願っている。

希少植物のヒメザゼンソウやヤマシヤクナゲの調査、子どもたちのソバまきに収穫の体験と、多彩な取り組みをしてきた。ほ場整備の現場では、担当の県職員らに「希少種はどう取り扱うのか」「工事から回避できる部分はないか」と質問するなど、公共事業からも自然を守ってきた。

た。瀬川さんは副理事長に就き、翌二〇〇〇年、NPO法人に認定された。今後は自然や文化を紹介するエコツアーや、散策を通して地域の歴史に理解を深める地元学にも手を広げるつもり。広瀬さんは「多くの人に西和賀の自然や文化に触れてもらい、住民がみんなできあがる『結の文化』をはぐくんでいきたい」と話している。

沢内村にある茅葺き屋根の古い民家を改修した建物を活動拠点としている。八年前、取り壊しにあつた運命



ほ場整備の前に環境保全策を県職員と話し合う広瀬さん(左端)、瀬川さん(左から2人目)ら